

施設と障害者が協働でつくるバリアフリー情報

～NPOなどによる施設ホームページ等の改善提案～

浅野 健

近年、公共施設のバリアフリー化が進み、障害者にとって利用しやすい施設がまちなかに増えてきている。しかし、施設のホームページやパンフレット等でバリアフリー情報の提供がされている施設は意外に少ない。このことに着目したNPO法人ひとやさしいまちづくりネットワーク・東海（以下、NPOひとまちネット）が、施設と障害者等の協働によるバリアフリー情報づくりに取り組んでいる。

施設のホームページにバリアフリー情報を

NPOひとまちネットは、愛知県を中心に「ひとやさしいまちづくり」、市民が主体となって誰もが住み慣れたまちで暮らすことを実現するために活動する「ひとやさしいまちづくり」の普及を活動目的として二〇〇三年に設立した。この間、愛知県が主催する「人にやさしい街づくり連続講座」の企画運営を中心に、人にやさしい街づくりに関する調査、講座などの事業に取り組んでいる。

NPOひとまちネットで近年話題としているのは、高齢者や障害者が施設に出かける時に必要なバリアフリー情報が、一つでも多くの施設のホームページやパンフレット等に掲載されるよう普及啓発をどのように図るか、という点である。各地で高齢者や障害者が参加してバリアフリーマップがつけられているが、これらは個々の施設の新設・廃止・移転や施設・設備の改善情報への追従が困難で、マップを一度作成したら二度と更新されず、情報が陳腐化することがよくある。一方、施設のホームページ、パンフレット等にバリアフリー情報が掲載されれば、高齢者や障害者にとって情報が入手しやすく、最も効果的である。

施設と障害者等が協働で

二〇〇八、二〇〇九年度には、名古屋都市センターの助成金を活用し、名古屋市内の商業施設等でラシック、名古屋三

越栄、名古屋ルーセントタワーの三施設、会議室のある施設で名古屋市政資料館、名古屋市公会堂、ウイルあいちの三施設、計六施設で改善提案を行った。実施にあたって施設側から共通して出された意見は、バリアフリーに配慮されていてもどのように情報を提供したらよいか

がわからない、ということであった。そこで、施設側（施設管理者等）と利用者側（ここでは障害当事者）とが協働して行い、整理したバリアフリー情報は、施設側に提供し活用していただくことを目的とし、以下の視点で取り組んだ。

◆障害当事者（主に車いす使用者）、建築・都市計画他様々な分野から参加を得てつくる（参加者二十数名、回数二十回以上）。

◆施設側と障害当事者とがお互いの顔を見ながら意見交換し、改善を重ねる。

障害当事者の声と施設側の気づき

この取り組みの主な意義は二点。一点目は、障害当事者から直接ニーズを引き出し、トイレ、駐車場、アクセスできる出入口（通路等）の必要な情報を、写真、図面と簡潔な説明で整理できたことである。改善提案した施設のホームページ、パンフレット等は、施設側にも参加者にも概ね好評だった。二点目は、施設側が調査に同行することで、障害当事者とバリアフリーについて見識のある建築士の意見を直接聞き、施設側の気づきにつながったことである。

施設のバリアフリー情報を改善していくには、施設側と障害当事者の協働の場が有効であり、今後この取り組みに関わっていききたいと思う。



バリアフリー情報づくりでは、施設側と障害者、建築士等と一緒に施設を見て回ることで、施設側の気づきにつながる。



名古屋市公会堂のホームページでは、ホール・会議室、トイレ、エレベーター等のバリアフリー情報が掲載された。

えこキャラ、各地で活躍中

～キャラクターによる環境意識の醸成～

櫻井 高志

環境問題とえこキャラ

環境問題は今後のまちを考える上で、最大の課題と言ってもよい。地球温暖化、生物多様性、ごみ問題しかりである。

環境問題は個人による負荷は小さいのだが、それらが集積することで影響が増し問題が顕在化する。そのため、個人では実感が湧きにくく、意識は薄くなりがちとなる。しかし、問題解決には一人ひとりの意識を高めていくことが必要であり、様々な普及啓発活動が取組まれている。そのひとつが、「えこキャラ」である。

意識醸成へ向けた「えこキャラ」の登場

えこキャラとは、環境に関わる普及啓発に取組むキャラクターのことを指す。その特徴はご当地キャラと違い、身近な市民の啓発を狙いとしていることが殆どなため、地域密着型であるということだ。弊社では昨年度から、環境省中部地方環境事務所への委託により中部におけるえこキャラの実態調査と普及啓発のためのイベント運営の業務を行った。

調査によると、昭和六十年代に作成されたものも古く、ここ最近、キャラブームに乗り、増えつつある。中部地方全体では、おそらく百以上のえこキャラがいると思われる。作成者は自治体がほとんどだが、企業や大学、NPOにまで広がっている。

各地で頑張るえこキャラたち

安城市「環境戦隊サルビアン」、福井市「リサイクル戦隊ワケルンジャー」、四日市の（株）東産業「ECO戦隊ゴミゼロレンジャー」等、かっこいいヒーローものはじめ、三重県「ゼロ吉」、岐阜県「あすはちゃん」、小松市「マモルくん」とごみ博

士、東海市立船島小学校「フナビオ・ビオゾー」、名古屋市「シヤチのジュンちゃん」等、かわいい着ぐるみ系キャラ。それに、四日市大学「イモマン」、射水市「エコ侍」、日進市「ポイ捨てGメン」等、異彩を放つものまで、本当に沢山ある。（是非、インターネットで検索してほしい。）

えこキャラの効果を活かせ！

えこキャラの強みは、かっこいい、かわいい、親しみやすいである。だから、子どもへの影響力は非常に大きい。その上、子から親へという大人への伝播効果も期待できる。さらには地域密着力を活かし、地元になくならない盛上げ役として、環境問題のみならず、地域活性化の役割を果たしているものも多数ある。キャラクターもうまく活用すれば効果は大きいのだ。啓発にはいろいろなチャネルを持ち、こつこつ続けていくことが重要である。今後も一時のブームに終わらせず、さらなる活躍を期待したい。



中部地方環境事務所主催「平成22年度3R推進中部地方大会」でのえこキャラによるステージショーの風景